

年間第十五主日

2016.7.10

ルカ 10・25-37

今日の福音の箇所は、よいサマリア人の話というふうに言われています。しかし、聖書を開いてみると、どこにもこのサマリア人が「よい」というふうには言われていないことに気づきます。聖書の中にあえて「よい」と記すまでもなく、また、イエスがこのサマリア人がしたことを「よい」と言われるまでもなく、聖書になじみのない人にとっても、このサマリア人のしたことは「よい」ことであり、あのような行動を起こすことが出来たサマリア人は、「よい」サマリア人です。だからイエスの語られたこの話は、「よいサマリア人の話」であり、その中に登場するこのサマリアの人は「よいサマリア人」と呼ばれているのでしょう。わたしたちの心の中には、誰の心にも、このサマリア人のしたことを「よい」と認めざるをえない思いがあり、この人のことを「よいサマリア人」とある種の羨望をもって認め、称賛せざるをえない心の動きを感じます。

今日の福音の、律法の専門家との一連のやり取りにおいて、イエスが明らかにしようとしておられることは、旧約の律法の戒めによって神が求めておられることは、このように、誰の心の中にも響いているはずの「よい」と思われることを実行することであるということです。第一朗読の申命記のことばに戻って言えば、「わたしが今日、あなたがたに命じる戒めは難しすぎるものではなく、遠く及ばぬものでもない。・・・みことばはあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことが出来る」という、誰の心にも聴こえているはずの神の呼びかけ応えて、それを実行するということです。

イエスの時代のユダヤの人々の目から見れば、サマリアの人々は同じ先祖伝来の国土の中に住みながら、ユダヤの人々の律法の伝統から離れて暮らしている人々です。祭司やレビ人ではなく、そのようなサマリア人の一人が、強盗にあつて道端に倒れていた人に対してあのような行動を取ったと語るイエスのことばは、たしかに、この対話の相手である律法の専門家に代表される当時のユダヤ社会の指導的立場にあった人々のあり方に対する批判でもあります。けれどもそればかりではなく、ルカ福音書に記されたイエスが語られたこの話は、イエスを信じる全てのキリスト者に対して自戒を促す警告のことばとして響いています。事実、私たちは私たちの周りに、キリスト者ではない、あのサマリア人のような多くの人々がいることを知っています。「行って、あなたも同じようにしなさい」とあの律法の専門家に言われたイエスは、今日、わたしたちに

も同じことをお命じになっておられるのです。わたしたちに求められていることは、何よりも、謙虚さです。自分には、あのサマリア人のように行動する勇気も、隣人に対する真の関わりの姿勢もないことを認め、そのような勇気と隣人への愛の精神を願い求めたいと思います。今日の福音でイエスが語って聞かせてくださったサマリア人のような人々は、わたしたちの周りにも沢山いることをわたしたちは知っています。そのような多くの善意の人々とわたしたちの違いは、わたしたちはイエスによって、そのような多くの善意の人々が、わたしたちの周りであることを教えられ、そのような人々の姿を通して神はわたしたちにも呼びかけておられることを教えていただいているということです。

そればかりではなく、今日もこのよいサマリア人の話を語り聞かせてくださるイエスご自身、父なる神のみもとからわたしたちのもとに来てくださり、わたしたちを助け起こすためにそのいのちの全てを与え尽くしてくださったこのはなしの主人公であることをわたしたちは知っています。今日もこのミサの中で、わたしたちは、わたしたちにとっての真のよいサマリア人となられた主の十字架の祭壇の前に祈りをささげ、そのいのちに与る聖体によって力づけられようとしています。わたしたちが捧げるべき祈りは、わたしたちもまた、その主のいのちに生かされて、わたしたちの主イエスがそうであられるように、すべての人に対してよいサマリア人となることが出来るようにということではないでしょうか。そのような勇気と力を願って、今日もこのミサをおささげたいしましょう。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高